

教育相談担当より



● 適応指導教室「いおう教室」

教室では、一人一人の個性や気持ちを大切に基礎的な学習や体験活動、製作的活動、面談等を行い、学校生活への適応を援助します。

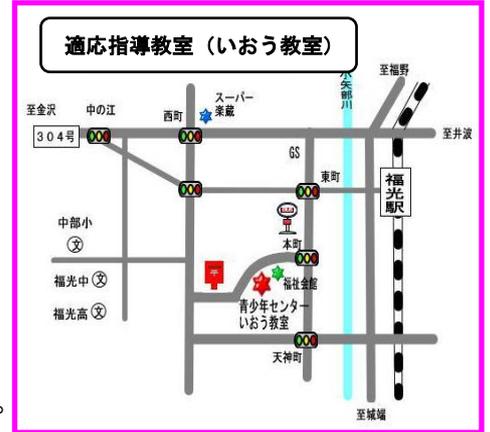
【場 所】 福光青少年センター3階（南砺市福光1137-2）

【電 話】 52-5593

【開設時間】 9:00～15:00（月～金）

【指導員】 松村 朝美 先生 中山 登 先生 大浦 香代 先生
定塚 治美 先生 山崎貴美江先生

5人の指導員が、児童生徒の支援や保護者の相談に応じています。
お問合せは、南砺市教育センターまでお願いします。



● 教育相談のつどい

専門の先生による、保護者対象の個別相談会です。毎回、開催前に案内プリントを学校に配付します。子育てでお困りの保護者の方に、ぜひお知らせください。

第1回 5月26日(土) 第2回 6月 9日(土) 第3回 7月14日(土) 第4回 9月29日(土)
第5回 10月13日(土) 第6回 11月10日(土) 第7回 1月26日(土) 第8回 2月23日(土)

【助言者】 富山大学保健管理センター 准教授 西村優紀美 先生
臨床心理士・精神保健福祉士 大浦 暢子 先生

【開催場所】 1、3、5、7回 福野文化創造センター（ヘリオス） 2、4、6、8回 福光福祉会館

【時 間】 10:00～15:00

【申 込 み】 南砺市教育センター相談専用電話（82-8301）

● その他の相談会

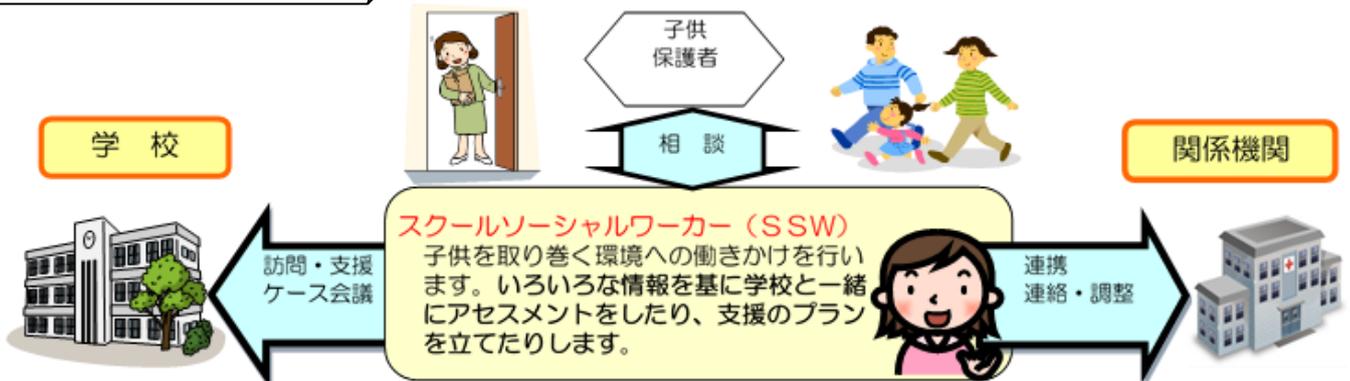
「言語の発育に関する相談」や「にこにこ相談会」があります。詳しくは、4月に学校にお届けした「子育て相談のご案内」リーフレットをご覧ください。（申込みは、各相談担当の専用電話をお願いします。）ご質問等ございましたら、南砺市教育センターまでお問合せください。

スクールソーシャルワーカーは、学校現場をサポートします

こんなときに相談を！

- ・不登校
- ・いじめ
- ・保護者対応等のつなぎ役

子供や保護者の支援だけでなく、先生方の「困り感」を少なくするために、支援や関わり方について共に考え、行動します。専用電話で、相談や質問にも応じています。



研修担当より



1 以下の委員会を設け、調査研究を進めます。

体力づくり委員会	3年間における体力向上の対策と実践
理科資料委員会(小学校)	小学校理科資料「大地のつくり」の改訂
社会科資料委員会(中学校)	中学校社会科資料「身近な歴史」「南砺市地図」の改訂

2 研修事業として以下のことを行います。

事業名	期日・時間	対象	内容
南砺市教育講演会	8月10日(金) 13:45~16:30	悉皆	内容：プロ教師の「アクティブ・ラーニング」はここが違うー授業改善と学力向上のポイントー 講師：関西外国語大学 英語国際学部 教授 中嶋 洋一 先生 会場：井波総合文化センター メモリアホール
学校ネットルールづくり講習会	6月29日(金) 14:00~16:30	生徒指導主事 又は児童会・生徒会担当者等から1名、希望者多数	内容：学校ネットルールづくりに向けた講習 講師：兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹内 和雄 先生 会場：井波庁舎3階 多目的ホール
ふるさと学習研修会	7月30日(月) 13:30~16:30	市内小中学校 初任勤務者 及び希望者	内容：歴史文化施設めぐり【城端地区】 講師：見学場所担当者 見学場所：PAワークス、桜クリエ、松井機業場 城端曳山会館 等
教育セミナー (学級づくり研修会)	8月20日(月) 13:30~16:30	4~10年次 教職員 及び希望者	内容：学ぶ意欲と共に生きる力を高める学級づくり 講師：新潟薬科大学 非常勤講師 橋本 定男 先生 会場：井波総合文化センター エイトホール
学力向上研修会	8月27日(月) 13:30~16:30	市内小中学校 教務主任又は 研究主任	内容：学力向上に向けての授業づくり・授業改善 講師：県学力向上推進チーム 研究主事 脊戸 義明 先生 会場：井波庁舎3階 多目的ホール

3 砺波地区教育センター(砺波、小矢部、南砺)の協業事業として以下の研修があります。

① **学級づくり研修会** 7月27日(金)

(演題：未定)

講師：愛知教育大学

教授 鈴木 健二 先生

会場：庄川生涯学習センター

② **特別支援教育研修会** 8月3日(金)

『医療から見た特別支援教育』

講師：厚生連高岡病院

小児科診療部長 窪田 博道 先生

会場：南砺市役所井波庁舎 3階多目的ホール

③ **資質能力向上研修会** 8月7日(火)

『保護者対応で教職員が身に付けたい資質能力について』

講師：富山国際大学 子ども育成学部

教授 村上 満 先生

会場：小矢部市総合保健福祉センター

① ③は 13:30、②は 14:00 開始

詳しくは6月中旬に送付する研修要項をご覧ください。多くの方の自主的な参加をお待ちしています。



平成30年度のセンター所員です。一年間よろしくお願いいたします。近くにお越しの際には、お気軽にお立ち寄りください。

- ◇ 所 長 松 永 和 久
- ◇ 指 導 主 事 松 井 昌 美
- ◇ 助 手 高 田 美 由 紀
- ◇ スクールソーシャルワーカー 菊 地 章 子
- ◇ スクールソーシャルワーカー 吉 田 美 司 子
- ◇ 特別支援コーディネーター 酒 井 久 美 子



教育センターが行うサービス（一部）



拡大教材等の作成

教科書や副読本、資料等の拡大印刷（A1・A2判）、四つ切色画用紙への直接印刷、垂れ幕・横断幕作成等ができます。（パワーポイントで作成したデータを、共有サーバ上にご準備ください。） 10 教セ>90 庶務>拡大印刷依頼

教科書・図書資料の貸し出し

教育センターには教科書が揃っています。現在採用されているものはもちろん、それ以外の教科書も準備しています。また、特別支援教育や特別活動に関する図書、ソーシャルスキルトレーニング絵カード等の貸出も行っています。どうぞご利用ください。

教育センター



スクールバスの活用



校外学習の際に、スクールバスの使用が可能です。ただし、各学校の下校時間に支障がないよう 14:30 には帰校できるよう計画してください。また、出発の**2週間前まで**には利用申請書の提出をお願いします。

視聴覚教材・備品等の貸し出し

砺波視聴覚協議会のDVDの貸し出しを行っています。タブレット（8台）、DVD再生一体型プロジェクター等の貸し出しも行っていきます。利用を希望される場合は、早めに電話で問合せをいただき、事前予約をお願いします。校外学習の際にはAEDもご活用ください。



<学校図書館を利活用した教育実践の展開を>

学校図書館法第2条には、「★図書、視聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、①学校の教育課程の展開に寄与するとともに、②児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的とする」と書かれています。学校図書館の目的は①②の二つあるのですが、新学習指導要領で強調されている「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を行うために、**教員**として、特に①の目的に今まで以上に目を向けて、学校図書館を利活用していくことが重要だと言われています。そこで、★の業務を行う**学校司書（助手）**の力が必要となります。5月8日（火）に実施した学校司書研修会で、多くのことを得られたと思います。今後、チーム学校の趣旨からも、教員、学校司書（助手）が連携を図っていくことが子供の成長にとっての一助になると思います。

新緑が美しい季節になりました。教育センターから市内の小中学校に、所用で車を走らせることがあります。5月上旬、五箇山地域では、緑を彩る薄紫の山藤の美しさが目に飛び込んできました。他の木に巻きついて育ち、誰が世話をするわけでもないのに、季節が来ればこんなにきれいな花を咲かせるのです。平野部に下りてくると、目の前がぱっと開け、整然と広がる田畑、果樹園が目に入ってきました。そんな風景を眺めながら、「南砺ってやっぱりよいところだな」と再認識しました。それぞれの地域にそれぞれのよさがあり、地域の暮らしがあります。その地域の学校に通い、今日を生きる子供たちがいるのだ、ということを改めて考えさせられました。市内には、17の小中学校、15の幼・保・こども園があります。教育センターの部屋からは見えない「子供たちの姿」を思い描くことを忘れずに、南砺市教育センターの役割を考えながら、日々力を尽くしていきます。

（松井 記）



教育センターだより



南砺市教育センター



子供のアクティブ（能動的）な姿を求めて

南砺市教育センター 所長 松永 和久

教育センターでは、南砺市教育講演会（8月10日）で、旧庄川町出身の中嶋洋一先生（関西外国語大学）に講演をしていただくことを計画しています。中嶋先生の著書「『プロ教師』に学ぶ真のアクティブ・ラーニング（開隆堂 H29, 8, 18 P vi）」に、脳の働きの一つとして、次のように書かれています。

「脳」は、本人の願いを叶えようと働く。だから、何かを成し遂げようと強く願っている人は「アクティブ」な状態になる。「もっと、こうしてみたい」と考え、行動を起こす。

中嶋先生は、脳の特性がそのまま授業に影響を与えていると主張しておられます。

この書籍を読んだ私は、24年前に担任した4年の美貴さん（仮名）の姿を真っ先に思い出しました。美貴さんは1学期の約1か月半、社会科「消防」の学習で追究を進めました。その美貴さんから、夏休みに入って私の家に手紙が送られてきたのです。

8月に3日間、夜7時半から、私たちは地域を歩いて、「火の用心」の呼びかけをします。松永先生も来てください。

当日、私が行くと、美貴さんたち4名の子供が、拍子木を打ちながら「火の用心、マッチ一本火事の元」と大きな声を出しながら呼びかけをしていました。美貴さんたちの姿は、中嶋先生の言われる「脳」の働きが具体

となって現れたものだと思います。

美貴さんの行動の原動力は、消防団員である自分の父親を否定されたことがきっかけでした。授業の中で和夫君（仮名）が、「消防団なんて、お金ももらえないし、休みもつぶれるし、意味がない」と発言したのです。それを聞いた美貴さんは、消防団の訓練の様子をビデオで撮ったり、父親から消防団の話をして聞いて録音したりして、その後の授業の中でそれらを提示しながら、消防団員（父親）の活動の意味を強く訴えました。その過程で、自分も父親のように地域のために貢献したいと思ったのです。そして、驚くことに、和夫君も美貴さんと行動を共にした一人となったのです。

未熟な私は、当時の校長先生や研究主任の先生から、「子供の追究の経緯や考えを捉えておくこと」「話し合いでは一人の発言が他にどう触発するか想定しておくこと」「発言の真意を掘り下げること」等、正に、脳の特性を生かす授業の在り方について教えていただきました。そして、美貴さんや和夫君からは、子供が能動的になるための教師の働きかけを教えてくださいました。

脳の特性を生かす授業は、新学習指導要領で強調されている「主体的・対話的で深い学び」を実現させるでしょう。そのためには、教師の力量や教育観が重要になります。8月10日には、私も中嶋先生から、子供がアクティブ（能動的）になるための貴重な話を聞いて学びたいと思います。